

前橋市立前橋高等学校 学校評価一覧表 (令和5年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①地域活性化プロジェクト「めぶく」に主体的に取り組んだと感じている生徒の割合が75%以上である。	総合的な探究の時間を通して生徒が主体的に活動し、自己決定をすることで自己有用感を得られるような取組を図る。					
		②習熟度別で履修をすることにより、生徒の75%以上が学習意欲が向上したと感じている。	習熟度別クラスにおける到達目標を明確にした上で、生徒一人ひとりの目標を設定させることで学習意欲を喚起する。					
		③少人数制で履修することにより生徒の75%以上が思考・判断・表現力が向上したと感じている。	少人数制授業の利点を生かし、主体的・対話的な学習活動を展開することで生徒が思考・判断・表現する機会を設ける。					
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④学習に対する達成感や満足感をもっている生徒が75%以上である。	習熟度別や少人数制の授業で個に応じた指導を実施し、小テストなどを積極的に取り入れることで学習を振り返る機会を設ける。					
		⑤「授業がわかりやすい」と評価している生徒が75%以上である。	生徒が主体的に考え、学び合うテーマの設定と興味関心を引く授業を展開することで、理解を実感させる。					
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥「授業を通して学力がついた」と評価している生徒が70%以上である。 ⑦進路実現のために必要な学習時間が十分に確保できている生徒が75%以上である。	定期的に理解度を測ることで、生徒自身につまずきを分析させ、個に応じた指導で理解を深める。 学習時間調査を定期的に行い、目標や課題を設定させ、家庭学習の必要性を自覚できる指導を実践する。					
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧いじめ防止対策委員会を年間10回以上開催する	いじめと疑われる事案の際にはすぐに委員会を招集し、大きな問題につながる前に組織的な対応を行う。また、いじめの報告が3カ月ない場合は、経過観察や未然防止に向けた取り組みのため委員会を開くようにする。					
		⑨盗難予防のために自転車やロッカーの施錠率が90%以上である。	定期的に学年ごとに施錠率を把握し、必要に応じて生徒指導通信等で周知していく。					
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩学校は「学校いじめ防止基本方針」について、生徒に説明していると認識している生徒が90%以上である。	学校いじめ防止基本方針を生徒と保護者に周知徹底させ、いじめ防止とともに諸問題について早期発見早期対応を心掛け、組織的に対応を図る。					
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪学校と家庭の連携の中で、怠惰な遅刻がないと自覚している生徒が90%以上である。	基本的な生活習慣を身につけさせるため、全職員で生活指導に取り組み、規律ある学校生活が送れるようにする。						
	⑫ゴミを分別し、校内の美化を心がけている生徒が80%以上である。	校内の美化と環境への配慮を意識づけることにより、快適で安全な学習環境を整備する。						
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑬「自己の生き方」と「将来の職業」との関連について考えている生徒が75%以上である。	探究学習計画「めぶく」を通して、自己の生き方を考える取組を充実させる					
		⑭生徒の将来の志望について理解している保護者が75%以上である。	家庭での進路についての会話を増やせるように、保護者参加の進路講演会や進路通信を充実させる。					
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮進路通信や進路情報誌などを活用している生徒が75%以上である。 ⑯進路実現に向けた指導に満足している生徒が75%以上である。	進路通信・進路情報誌を生徒が主体的に活用する指導を心掛けるとともに、情報提供のツールとしてClassiを効果的に活用する。 進路実現計画「さ霧晴れて」に基づいて、二者面談を中心とした個別指導を適切に実施する。					
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰学校のWebページや連絡メールで学校の情報を確認している保護者が80%以上である。	学校における諸活動の様子や最新の情報をWebページ等に適宜掲載し、家庭や地域のニーズに対応する。					
		⑱保護者が来校できる行事が年2回以上実施されていることを認識している保護者が80%以上である。	紙による行事案内に加えてメールやClassiなどを使って保護者に行事予定を周知し、保護者が参加しやすい環境を整える。					
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲授業や家庭学習においてChromebookを活用させる教職員の割合が75%以上である。	生徒に貸与されたChromebookやスタディサプリ、Classi Noteなどを活用した授業や探究学習を積極的に実践する。					
		⑳ICTを活用した授業や探究学習に満足している生徒が75%以上である。	市から貸与されたChromebookにより高い教育効果が得られるよう、指導方法を工夫する。					
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑学校行事の出欠確認や各種調査への回答および集約が便利になったと感じている生徒・保護者・職員の割合が80%以上である。 ㉒ICTを活用したアンケートに回答している生徒・保護者の割合が90%以上である。	学校行事への参加申込みや各種調査をGoogle forms等を利用してオンラインで行い、提出および集計作業を軽減する。 アンケート実施のお知らせや回答方法を連絡メールやClassiで送信し、周知徹底を図る。					